

復活節第二主日

2017.4.23

ヨハネ 20・19-31

東京教区 寺西英夫神父

復活祭から一週間が過ぎました。わたしたちは復活祭とか主の復活とか、名詞の形で普段よくことばにしますが、これはあまり正しい言い方ではないと思います。福音書には、死んだ人がどのようにしてよみがえったか、復活したか、そういうことはどこにも書いていない。福音書が書いているのは、イエスが死んだ、確かに金曜日の午後十字架で死んだということと、三日目の朝早く墓に行ってみると墓は空だった、そう書いてある。墓に葬られたそのイエスがどのようにして生き返ったか、復活したかということは、何も書いてありません。「墓は空だった」と書いてあるだけです。そして、今日の福音です。その日の夕方、弟子たちが一緒に集まっていると、突然あのイエスが弟子たちの真ん中に現れた。「あなたがたに平和」、そうおっしゃった。そして、十字架で釘付けになったその傷跡を見せて、「十字架で死んだわたしだ」と。「弟子たちは、主を見て喜んだ」と、そう書いてあります。面白いことに、その時、トマスという十二弟子の一人はそこにいなかった。あとから帰ってきて、みんなが本当に喜びに溢れている、そういうのを見て、彼はすぐにその輪の中に入ることができなかった。「わたしならその釘跡に指を入れてみなければ信じない」と。そんなことは嘘だ、あり得ない、と。幸いなことに、八日目に、今度はトマスがいるときに主は現れて、その姿を見せて、やっとトマスも信ずるようになります。多くの人たちは、トマスが好きですよ。わたしも。大体わたしは子どものころからあまのじゃくで、みんなが楽しく遊んでいると、すぐに「あ、入れて」とか、その中にすぐには入らない、じいっとただ傍で見ていた。誘われても入らない。だんだんこっちが気分が乗ってきたらすっと入るけれども、そう素直には絶対入らない。そんな子でしたが、トマスもきっとそういうタチだったんだろうと思います。いずれにせよ、聖書が伝えているのは、「あの死んでしまったイエスが、それにもかかわらず生きているということを弟子たちに示した」と、「弟子たちはそれを見て信じた」と、聖書が書いているのはそういうことです。

この物語を「顕現物語」というふうに呼びます。「出現物語」とは言わないんですね。「出現」と言うと、「出るぞ、出るぞ」と思っていると、やっぱり出た、というような、そういうお化けみたいな、幽霊みたいな感じだけでも、福音書が伝えているのは、弟子たちは「出るぞ、出るぞ」とは全然思っていない。生前、「わたしは死ぬけれども、殺されるけれども、三日目によみがえる」ということを弟子たちに告げていたにもかかわらず、弟子たちは全くそんなことを予

想もしていない。部屋の扉を固く閉めて縮こまっていると、イエスのほうから突然その姿を弟子たちに現した、と、そう福音書は伝えています。キリストは、「わたしは生きている。お前たちの支えとして、世の終わりまで一緒に生きている」ということをどうしても弟子たちに伝えなかった。信じてもらいたかった。だから、イエスのほうから現れた、と。福音書が伝えているのは、そういう出来事です。ですから、「出現物語」とは言わないで、「顕現物語」というふうに言うわけです。

もう一つ、大切なこと。今日の福音には、「その日、すなわち週の初めの日の夕方」そして「八日の後」というふうになっています。「その日」というのは、イエスが殺されてから三日目の、こんにちの曜日で言えば日曜日。日曜日を当時は「週の初めの日」と呼んでいました。この福音のすぐ前の物語は、婦人たちが墓に行ったら墓は空だった、ということが書かれています。そして、そのあと、その夕方、イエスは弟子たちの真ん中に突然お姿を見せた。ヨハネは、わざわざ「週の初めの日」、そしてその「八日目」というふうにこの話をこたわっています。ヨハネがこの福音書を書いたのは1世紀の終わり頃だと考えられていますが、もうその頃は、弟子たちは、あるいはその後継者たちは、週の初めの日、つまり日曜日、一緒に集まって主の晩餐の記念をしておりました。ヨハネはこの福音書をそういう背景の中で書いていると思います。ですから、最後に「お前たちはしるしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は幸いである」と、イエスの最後のおことばをヨハネはこう伝えています。これは、明らかに、わたしたちへのことばですよ。週の初めの日、わたしたちはこうして一緒に集まっている。その真ん中に、見えないけれどもあのイエスが生きている。そして、わたしたちに「あなたがたに平和」と、そう挨拶し、そして、自分のしるしである聖体を受けよと、わたしたちにパンの形でいのちを与えてくださる。

教会は、イエスの死後間もなく、あの最後の晩餐のイエスのおことばを思い出して、週の初めの日、一緒に集まって主の晩餐を祝う、ミサを行うようになりました。そして、そのミサの中に復活のキリストが現れる、わたしたちと一緒にいてくださるということを示してください。ミサはそういう出来事なのだということを、ヨハネはこの福音を通してわたしたちに伝えているのだと思います。ですから、皆さん、今日のように、また八日目に、集まりましょう。八日目ごとに一緒に集まりましょう。そして、復活したキリストの平和をいただいて、力強く社会へと出かけていくようにいたしましょう。